

3 とちぎの誇りプロジェクト

1 プロジェクトの概要

(1) 目標

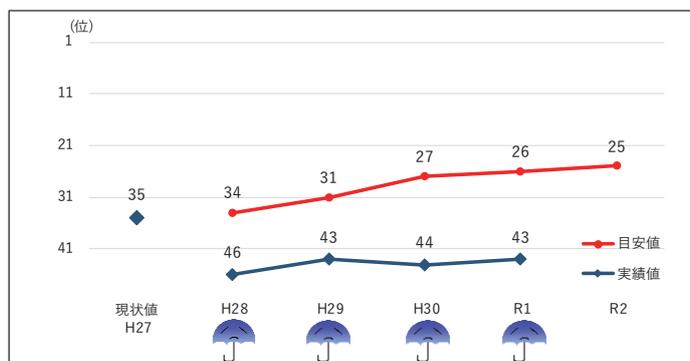
- 豊かな自然・歴史・文化等、本県の魅力への理解を深め、とちぎへの愛着や誇りを醸成し、とちぎの魅力・実力を県内外に発信していくことで、本県のブランド力の向上を図ります。

(2) 重点的取組

- ☆ とちぎへの愛着や誇りの醸成
- ☆ 発信力の強化ととちぎのブランド力の向上
- ☆ とちぎの豊かな自然の継承

2 プロジェクトの進捗を表す成果指標等の状況

①地域ブランド力(魅力度)全国順位



○成果指標の分析

- ① 令和元（2019）年度は、魅力度は増加（11.3ポイント→12.5ポイント）し、過去最高を記録しましたが、順位上昇は1位にとどまっています。

3 県民満足度調査の結果

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
満足・やや満足の割合	35.6%	33.6%	34.6%	31.5%	26.5%
やや不満・不満の割合	12.3%	13.5%	15.7%	16.0%	13.6%

4 主な取組成果

① とちぎへの愛着や誇りの醸成

▷とちぎへの愛着や誇りの醸成

○小・中学生へのふるさと学習の推進

- ・ふるさと（地域、市や町、県）にある素材を教材として活用したふるさとの自然、産業、歴史、伝統、文化等について理解を深める学習の推進
- ・「とちぎふるさと学習」の資料集及びホームページの活用促進

○高校生の郷土への理解を深める学習の推進

- ・資料集「とちぎから見る世界と日本」の活用による県立高等学校の歴史学習等の推進

○「とちぎの百様」を活用した郷土愛の醸成

- ・小中学生から作文や俳句・川柳等を募集するジュニアコンクールの実施

○県内メディア・イベント等を活用した愛着・誇りの醸成

- ・県民による「とちぎ大好きコメント・フォトメッセージ」や栃木自慢クイズの募集・活用
- ・魅力・実力の再発見・再認識を促すフリーペーパーの作成や「とちぎ未来大使セッションズ」の開催等

○多面的機能支払交付金制度を活用した地域環境への関心の醸成

- ・「生きものマップ」、「豊かな農村づくり写真」の募集

② 発信力の強化ととちぎのブランド力の向上

▷本県の魅力・実力の発信ととちぎのブランド力の向上

○とちぎブランド取組方針の推進

- ・官民連携による「とちぎブランド力向上会議」の開催
- ・「とちぎブランド力向上シンポジウム」の開催

○オールとちぎでの各種PRやプロモーションの強化

- ・東京圏・関西圏プロモーションの実施やPR動画の制作・配信、メディアに対するパブリシティの実施
- ・本県の農産物を活用した加工食品や機能性表示食品制度の活用等による商品開発や東京圏における販路開拓の支援
- ・民間ノウハウを活用した提案型の商品開発とプロモーションによる戦略的な取組の展開
- ・「本物の出会い栃木」アフターデスティネーションキャンペーン（アフターDC）の展開、とちまるショップにおける観光イベントの実施等
- ・各種広報媒体を活用した県政情報の発信

○各種広報媒体を活用した県政情報の発信

- ・「とちぎ県民だより」、県外在住の本県出身者向け「ふるさと“とちぎ”だより」の発行
- ・県ホームページによる魅力の発信
- ・とちぎテレビ、栃木放送等を活用した広報

○「東京オリンピック・パラリンピック等に向けたとちぎビジョン」の推進

- ・県民や関係団体等の機運醸成を図るためのオリパラ機運醸成シンポジウムの開催
- ・東京2020大会に向けたハンガリー競技団体の直前キャンプに向けた視察受入や、市町と連携したホストタウン交流の推進

③ とちぎの豊かな自然の継承

▷人と自然が共生するとちぎの実現

○地域住民や企業等との協働による自然環境の保全と利活用の推進

- ・企業と地域住民・保全活動団体とのマッチングによる社会貢献活動の推進
 - ・生物多様性アドバイザーなどの各種人材を活用した各種保全活動組織による取組の推進
 - ・「とちぎ地域・森林づくりフォーラム」の開催
- 農村環境保全に向けた、多様な主体による協働活動の定着
 - ・都市住民・企業と地域住民との協働による農村環境保全活動の支援、地域と企業との連携
 - ・農業者と地域住民の共同活動による農村環境保全活動の支援
 - シカ・イノシシ等、野生鳥獣を計画的に管理するための個体数調整や生息環境の管理、防護対策などの総合的な対策の実施
 - ・鳥獣被害対策本部と地域鳥獣被害対策連絡会議の連携による地域の実情を踏まえた対策の推進
 - ・シカ・イノシシの捕獲の推進
 - ・狩猟免許の取得支援や実践的な捕獲技術講習など捕獲の担い手の確保・育成の推進
 - ・有害鳥獣の捕獲、侵入防止柵の設置、ヤブの刈払い、森林における忌避剤散布及びネット巻き等の対策の推進
 - ・各種補助金等を活用した農林水産業被害対策への支援

5 総合評価

① とちぎへの愛着や誇りの醸成

▷とちぎへの愛着や誇りの醸成

- ・地域ブランド調査において「とても愛着がある」、「やや愛着がある」と回答した本県出身者の割合は71.1%、令和元（2019）年度に実施した「栃木県に対するイメージ調査（県内調査）」において本県に愛着を感じている県民の割合は71.3%（平成25（2013）年度：71.2%）と横ばいで推移しています。

② 発信力の強化ととちぎのブランド力の向上

▷本県の魅力・実力の発信ととちぎのブランド力の向上

- ・本県の魅力度は上昇（平成28（2016）年度：7.8ポイント→令和元（2019）年度：12.5ポイント）しましたが、順位の上昇にはつながらず、地域間競争はますます激化しています。また、栃木県のイメージに対する回答割合は「わからない・特になし」が34.8%と最も高く、引き続き発信力の強化とブランド力の向上に向けた取組が求められています。

③ とちぎの豊かな自然の継承

▷人と自然が共生するとちぎの実現

- ・シカ・イノシシの捕獲数は増加傾向にあり、農林業被害は減少傾向にあるものの依然として高い水準で推移しています。
- ・クビアカツヤカミキリ被害対策に関し、関係市町と協議会を設立し、防除方針を策定した。今後、防除方針に基づいた、被害の拡大防止や被害地域の縮小への取組が求められている。
- ・引き続き、市町や関係機関と連携し、地域の実情を踏まえた地域ぐるみの総合的な対策の強化が求められています。